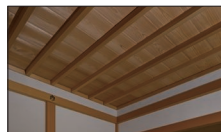


くら
比べてみよう！

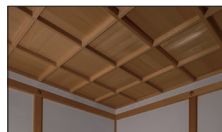


ほんまる ごてん なか ある たてもの へ や ふすま え てんじょう らん ま かな ぐ ちが
本丸御殿の中を歩くと、建物(部屋)ごとに襖絵や天井、欄間、金具が違うことに
きつ 気づきます。それは、それぞれの建物が、「権威と格式(身分や家柄、上下関係)」
あ 合わせて、つか われ 方が ちが 違っていたからです。襖や壁の絵、天井、欄間、金具など
くら を比べながら、各建物の役割を考えてみましょう。

てん じょう 天井



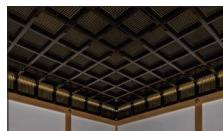
さおぶてんじょうげんかん
竿縁天井(玄関)



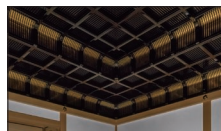
ごうてんじょうおもてしよいん
格天井(表書院)



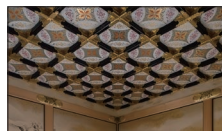
おりあ こぐみごうてんじょうおもてしよいん
折上げ小組格天井(表書院)



くろうしめりおりあ こぐみごうてん
黒漆塗折上げ小組格天
井(対面所)



くろうしめり にじゅうおりあ こぐみ
黒漆塗二重折上げ小
格天井(対面所)



くろうしめりかな ぐつきごうてんじょう
黒漆塗金具付格天井
(上洛殿)



くろうしめり にじゅうおりあ まきえ
黒漆塗二重折上げ時
付格天井(上洛殿)

らん ま 欄間



きやらん ま げんかん おもてしよいん
鞘欄間(玄関・表書院)



おきらん ま げんかん おもてしよいん
箆欄間(玄関・表書院)



はならん ま おもてしよいん
花欄間(表書院)



はなざ まこうしらん まじょうらくてん
花狭間格子欄間(上洛殿)



おうこくらん ま じょうらくてん
彫刻欄間(上洛殿)

かな ぐ 金具



ばいかな ぐ ろう か
唄金具(廊下)



くきかく げんかん
釘隠し(玄関)



くきかく さぎの ろう か
釘隠し(鶯之廊下)



くきかく じょうらくてん
釘隠し(上洛殿)



ひきて かな ぐ げんかん
引手金具(玄関)



ひきて かな ぐ おもてしよいん
引手金具(表書院)

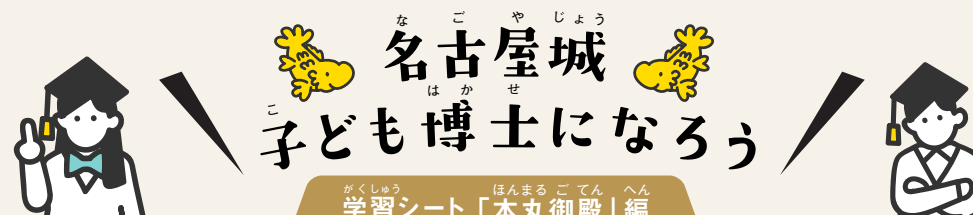


ひきて かな ぐ たいめんじょ
引手金具(対面所)



ひきて かな ぐ じょうらくてん
引手金具(上洛殿)

な ご や じょうそうごうじ む しょ
名古屋城総合事務所



ほんまる ごてん へん
— 本丸御殿は、なぜ豪華なのでしょう —

え ど しょうぐん むか
江戸の将軍をお迎えする
宿泊施設として
つか
使われました

な ご や じょうほんまる ごてん お わりはんしゅ
名古屋城本丸御殿は、尾張藩主の
す 住まいかつ藩の政治を行う場所として、
ねん けいちよう た
1615年(慶長20)に建てられました。

ねん げん な はんしゅ す
1620年(元和6)、藩主の住まいと
せいじ ば にの まるごてん うつ
政治の場が二之丸御殿に移ってからは、
しょうぐん しゅくはくせんよう し せつ
将軍の宿泊専用の施設となりました。

ねん かんえい え ど ばくふ だい
1634年(寛永11)、江戸幕府3代
しょうぐん とくがわいえみつ きよう と む と ちゅう
将軍・徳川家光が京都へ向かう途中

しゅくはく まえ じょうらくてん
で宿泊するにあたり、その前に上洛殿、
くろき しょういん ゆ どのしょういん あら
黒木書院、湯殿書院などが、新たにつ
くられました。将軍が宿泊する施設なの
で、とても豪華で美しく、お城建築の最
こうけつさく よ
高傑作と呼ばれていました。

1930年(昭和5)に、天守といっしょ
に国宝に指定されましたが、1945年
しょうわ な ご や だいくしゅう も
(昭和20)の名古屋大空襲で燃えてし
まいました。しかし、も まえ しゃしん や
す めん の こ
図面が残っていたので、2018年
へいせい とうじ す がた ふくげん
(平成30)、当時のままの姿に復元す
ることができました。





黒木書院

ほんまる ごてん ほか へ や そう
本丸御殿の他の部屋は、総ヒノキづくり
でしたが、この部屋だけ松の木が使われて
います。

ふすま お つ すいぼく が えが
襖には落着いた水墨画が描かれてい
ます。きよ すい ない とく が わい や す しゅく しゃ
清須城内にあった徳川家康の宿舎
を移築したと伝えられています。



対面所

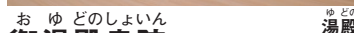
はんしゅ みうち かしん たいめん えんかい もち
藩主が、身内や家臣との対面や宴会に用い
た建物です。上段之間(18畳)・次之間(18
畳)・納戸上之間(24畳)・納戸次之間(24畳)
の4部屋があります。

ふすま しょうじ きょうと わ か やま ふうけい しょみん
襖や障子には、京都や和歌山の風景や庶民
の生活せいかつ えがが描かれています。



衣音阮

ほんまる くてん きやく ま じょうだんの
本丸御殿の客間で。上段の
ま じょう いち の ま じょうほん に
間(15畳)・一之間(24畳半)・二
の ま じょうほん さん の ま じょう
之間(24畳半)・三之間(39畳)・
なると の ま じょう へ や
納戸の間(24畳)の5部屋がありま
す。上段の間には藩主が座りました。
ふすま しょうじ はな とり しょうどうぶつ
襖や障子には、花、鳥、小動物
えが
が描かれています。



御湯殿書院

しょうぐんせんよう　　ろ　　げんざい　　ゆ　ぶね
將軍専用のお風呂です。現在のような湯舟は
なく、床下にある釜で湯をわかし、湯気を送り込
むサウナ式の蒸風呂でした。浴室(湯殿)の他に、
上段之間・一之間・二之間の3部屋があります。



えどば

江戸幕府3代将軍・徳川家光の宿泊に際し、増築されました。上段之間(15畳)・一之間(18畳)・二之間(22畳)・三之間(21畳)・松之間(20畳)・納戸之間(10畳)の6部屋からなっています。

ちようこくらん ま てんじよういた え ほんまる ごてん なか もっと
彫刻欄間や天井板絵など、本丸御殿の中で最も
ごう か たても
豪華な建物です。



ほんま

ほんまる ごてん おとず ひと とお
本丸御殿を訪れた人が、まず通
まれる待合室です。玄関といっても、
いちのまち じゅう にのまち じょう
一之間(18畳)・二之間(28畳)の
2部屋からなっています。
かべ ふすま ちくりん いさ とら
壁や襖には、竹林と勇ましい虎
や豹が描かれています。